

発刊によせて

ビジネス創造センター（CBC）

センター長 李 濟民

（大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻 教授）

国立大学法人小樽商科大学ビジネス創造センターの「平成 23 年度研究活動報告書」を刊行するにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本学は建学以来一貫して「商学」を「実学としての社会科学」と位置づけて、その時代、時代にふさわしい「実学の実践」に取り組んで来ました。ビジネス創造センター（CBC＝Center for Business Creation）は、その本学に、社会科学系国立単科大学として、全国最初に開設（平成 11 年 4 月）された地域共同研究センターです。

昨今は、大学にその研究成果を活用した「社会貢献」および「地域連携活動」機能を発揮することが求められています。CBCは、こうした時代の要請を受け止め、本学に脈々と受け継がれている実学の伝統と歴史的遺産を生かし、産学官連携活動と地域経済の活性化に寄与すべく取り組んで来ました。本報告書は、CBCの平成 23 年度の歩みをご紹介します、新たな社会貢献を目指すマイルストーンとして刊行するものです。

CBCは昨年度から事業内容の重点を①イノベーションを目指した産業振興プロジェクトの推進、②ビジネスサポートの積極的展開、③開放型研究セミナーなどによる「知の循環構造」の構築に移し、より一層その活動幅を広めることで、新たな時代の先導者の役割を担ってきました。とりわけ、本学のビジネススクールの卒業生を中心に提携コンサルタント制度をつくることで、ビジネス相談件数を大幅に増やし、高度職業人養成とそのネットワークづくりを実現しました。また、情報システムと社会環境研究会（平成 23 年 9 月）、おたるスキー発祥 100 周年記念シンポジウム（平成 24 年 2 月）、第 10 回北海道フードフェアセミナー（平成 24 年 2 月）、産学官連携研究成果報告会（平成 24 年 3 月）など様々な研究会・セミナー等を主催（または共催）することで開放型プラットフォームの基盤づくりを行ってきました。

今年度はこのような成果を基に、地域社会、民間企業、一般市民を交えた開放型研究セミナーや研究会をより一層活発化させ、多種多様な意見を取り込んだ解決策を模索しながら知的蓄積をはかっていきます。そしてさらにその内容を積極的に公開し社会に還元する「知の循環構造」を実現してまいります。

本報告書をご一読いただいて、皆様にCBCの活動をご理解いただくと共に、新しいCBCに対して一層のご指導、ご鞭撻を賜るようお願いする次第です。

平成 24 年 5 月